

抵抗性ミカンハモグリガに有効な薬剤

農業研究センター 果樹研究所 病虫化学部

担当者：行徳 裕

研究のねらい

県下全域に発生している抵抗性ミカンハモグリガに対して有効な薬剤を探索するとともに適正な散布間隔を検討した。

研究の成果

- 1 抵抗性ミカンハモグリガに対して、クロロニコチニル剤、カーバメート剤、IGR 剤が有効である。
- 2 IGR 剤は遅効的であるため、被害葉率が高い。しかし、軽微な被害が多く実用上問題はない。
- 3 適正な散布間隔はクロロニコチニル剤が 14 日、カーバメート剤と IGR 剤は 5~7 日である。
- 4 全ての合成ピレスロイド剤と有機リン剤の抵抗性ミカンハモグリガに対する効果はない。

普及上の留意点

- 1 同一系統薬剤の連用は抵抗性の発達を助長するので、他系統薬剤との輪用を行う。
- 2 ミカンハモグリガに登録のある農薬の系統と商品名

系統	商品名
クロロニコチニル剤	アドマイヤーSC、モスピラン水溶剤
カーバメート剤	オリオン水和剤
有機リン剤	アッパ水和剤、PMP 水和剤
IGR 剤	カスケード乳剤、デミリン水和剤、ノーモルト乳剤
合成ピレスロイド剤	ミカントップ乳剤、マブリッタ水和剤、ロディー乳剤等

表1 抵抗性ミカンハモグリガに対する合成ピレスロイド剤の効果*

農薬名	濃度	被害葉率%	被害指数
ミカントップ乳剤	2,000	94.8	42.2
マブリッタ水和剤	1,000	100	82.4
アデイオン乳剤	2,000	100	90.2
アグロスリン乳剤	1,000	98.9	90.9
ロディー乳剤	2,000	100	93.3
バイスロイドEW	2,000	100	48.6
トレボン乳剤	1,000	100	94.1
無散布		100	100

* : 7日間隔3回散布

表2 抵抗性ミカンハモグリガに対する各種薬剤の効果^{a)}

農薬名	濃度	被害葉率%	被害指数
アデイオン乳剤	2,000	65.3 (43.3) ^{b)}	39.0
PM P水和剤	1,000	98.9 (72.3)	90.9
オリオン水和剤	1,000	49.3 (1.3)	8.7
アドマイヤーSC	4,000	0 (0)	0
ノーモルト乳剤	2,000	78.7 (14.0)	18.8
カスケード乳剤	4,000	79.5 (9.3)	16.4
無散布		97.3 (96.7)	94.1

a) 7日間隔4回散布の効果

b) () 内は実害のある被害葉の割合%

表3 クロロニコチニル剤の散布間隔と防除効果

薬剤名	倍数	散布間隔	被害葉率	被害指数
アドマイヤーSC	4,000倍	7日	0%	0
		14	3.3	0.6
		21	28.7	16.4
モスピラン水溶剤	2,000倍	7	0	0
		14	4.7	0.8
		21	44.7	11.8
アデイオン乳剤 (対照区・合成ピレスロイド剤)	2,000倍	7	75.3	33.6
無散布区			96.0	87.0